火災の概要

1　出火件数

令和5年中における出火件数は、109件であり、前年と比較すると12件（12.4%）の増加である。

この出火件数を火災種別ごとにみると、建物火災は45件で全体の41.3%を占め、前年と比較すると9件（25.0%）の増加である。

林野火災は、7件で全体の6.4%を占め、前年と比較すると2件（40.0%）の増加である。

車両火災は、10件で全体の9.2%を占め、前年と同数である。

その他の火災は、47件で全体の43.1%を占め、前年と比較すると1件（2.2%）の増加である。

構成市町別では、佐倉市が64件で、全体の58.7%を占め、前年と比較すると３件（4.9%）の増加である。

八街市は34件で、全体の31.2%を占め、前年と比較すると6件（21.4%）の増加である。

酒々井町は11件で、全体の10.1%を占め、前年と比較すると3件（37.5%）の増加である。

2　出火率

出火率（人口1万人当りの出火件数）は4.2件である。構成市町別にみると、佐倉市が3.7件、八街市が5.0件、酒々井町が5.4件である。

3　焼損棟数及び焼損面積等

焼損棟数は71棟で、前年と比較すると17棟（31.5%）の増加である。

建物焼損床面積は4,017㎡で、建物焼損表面積は558㎡であり、前年と比較すると建物焼損床面積は2,372㎡（144.2%）増加、建物焼損表面積は242㎡（76.6%）の増加である。

焼損程度別でみると、全焼は19棟で前年と比較すると5棟の増加、半焼は4棟で4棟の増加、部分焼は18棟で4棟の増加、ぼやは30棟で4棟の増加である。

4　損害額

損害額は1,051,784千円であり、前年の427,901千円と比較すると623,883千円（145.8%）の増加である。建物火災1件当りの損害額は23,071千円であり、前年と比較すると11,497千円（99.3%）の増加である。

5　死傷者数

火災による死者は5人で、前年と比較すると4人の増加である。構成市町別では、佐倉市が4人、八街市が1人である。

火災による負傷者は11人であり、前年と比較すると4人の増加である。構成市町別では、佐倉市が4人、八街市が6人、酒々井町が1人である。

6　建物用途別発生状況

建物火災45件を用途別にみると、住宅が21件（全体の46.8%）で最も多く、次いで共同住宅等が7件（同15.6%）、工場、倉庫が各5件（同各11.1%）、物品販売店、事務所が各2件（同各4.4%）、飲食店、特定複合、非特定複合が各1件（同各2.2%）である。

7　り災世帯及びり災人員

り災世帯は44世帯であり、前年と比較すると21世帯（91.3%）の増加である。

内訳は、全損20世帯、半損2世帯、小損22世帯となっている。

り災人員は86人であり、前年と比較すると27人（45.8%）の増加である。

8　出火原因

出火原因別でみると、放火（放火の疑い含む）が25件（全体の23.0%）で最も多く、次いで、たき火が22件（同20.2%）、電気機器が8件（同7.3%）、こんろが6件（同5.5%）、たばこ、電灯・電話等の配線、焼却炉が各5件（同各4.6%）、配線器具、火入れが各3件（同各2.8%）、ストーブ、炉、溶接・溶断機、取灰が各2件（同各1.8%）、火遊び、排気管、内燃機関が各1件（同各0.9%）、その他が13件（同11.9%）、不明・調査中が3件（同2.8%）である。

建物火災についてみると、放火（放火の疑い含む）が9件（全体の20.0%）で最も多く、次いで電気機器が8件（同17.8%）、こんろが6件（同13.3%）、配線器具が3件（同6.7%）、たき火、電灯・電話等の配線、ストーブ、焼却炉、炉が各2件（同各4.4%）、たばこ、溶接・溶断機が各1件（同格2.3%）、その他が4件（同8.9%）、不明・調査中が3件（同6.7%）である。